

日本動物看護学会 第50回例会・動物看護教員研修  
～2018 日本動物看護学会年次大会に先駆けて～

開催日時：2017年11月3日（金・祝）

参加者：22名（他にプレスとしてインターズー、ファームプレス）

場所：学校法人シモンノ学園 国際動物専門学校

[主なプログラム]

11：00～11：10 主催者挨拶 下菌 恵子（一般社団法人全国動物教育協会代表理事）

桜井 富士朗（日本動物看護学会理事長）

11：10～12：40 「動物看護学教育の現在と新コアカリキュラムの策定」

石岡 克己（日本獣医生命科学大学教授

動物看護師統一認定機構コアカリ検討小委員会委員長）

「シミュレーション（代替動物）教材紹介」

桜井 富士朗（日本動物看護学会理事長）

12：40～13：30 昼休み

13：30～15：50 講座「動物看護師に必要な畜産学」

三上 隆弘（元中央畜産会・畜産アドバイザー）

16：00 閉会

[概要紹介]

2018年の「日本動物看護学会27回大会」は、一般社団法人全国動物教育協会（以後、全動協）が主管をさせていただくことになった。第26回大会までは大学が主管となって開催されてきたが、全動協が本学会の主管をさせていただくことは大変意義があると共に、重責を担うことになると感じている。

今回の例会は、その告知とともに、動物看護師統一認定機構から公表された新コアカリキュラムによる教育が2019年から実施されるに伴い、改訂された統一カリキュラムについて石岡克己先生からお話をいただいた。2400時間の現行カリキュラムから、2280時間（大学教育との共通コア時間は1650時間）の新コアカリキュラムの実施にあたり時間数が減少された経緯と理由、現行カリキュラムとの比較、整理された学科の内容紹介などがあった。今後、専門学校各校としては独自の活用法と采配を任せられている630時間について十分な検討をする必要があるだろう。

また、臨床技術に関する実習は症例動物を対象とした生体を活用するものではなく、代替教材での教育が推奨されているため、桜井富士朗先生による教材の紹介をいただき、なるべく生体に負担をかけない実習を目指せるよう開発に励んでおられる様子や、製作にまつわるご苦勞の報告と情報提供があった。

改訂カリキュラムでは、動物看護師の公的資格化を目指し伴侶動物だけではない職域の拡大を視野に入れ、産業動物について45時間を学ぶことになるが、まずは教員が畜産学についての学びをするために「動物看護師に必要な畜産学」を学ぶ時間を設定した。この中で、将来的に畜産経営や家畜飼養ができる人材を育成するために必要な視点、基礎知識として酪農と経営、研修牧場乳牛と肉用牛の生産サイクル、動物看護師の能力を畜産で活躍させる意識改革、動物看護師に求められる能力と畜産で求められる能力の違い、産業動物と伴侶動物の決定的な違いなどについて講話があった。

